



活動を通して友情深める

牛窓3小学校海の交流学習

6月12・13日の2日間、牛窓前島のカリヨンハウスで、牛窓東・西・北小学校の5年生54人が、海の交流学习を行いました。

児童たちは班に分かれ、海岸で魚や貝を採ったり、畑に植えられた野菜を収穫したりして、前島の自然に触れ、のびのびと活動しました。

また翌日は、いかだごぎに挑戦。班のみんなで力を合わせ、懸命にいかだをこぎました。最初に浜にゴールした班の吉田知絵さん（牛窓東小）は、「かけ声を掛け合って、みんなで頑張れてよかった」と話していました。

3校の児童は、一緒に宿泊や活動する中で、お互いに友情を深め、有意義な時間を過ごすことができました。



みんなで力を合わせていかだごぎをする児童たち

市民のために役立って

市危険物安全協会が市教育委員会にAEDを寄贈

危険物などに関する知識の普及啓発に取り組んでいる瀬戸内市危険物安全協会は、AED（自動体外式除細動器）1台を、市教育委員会に寄贈しました。

AEDとは、心停止状態の心臓に電気ショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器のことで、一般人でも使えるように設計されています。

7月4日、同協会の石田一成会長ら関係者が市教育委員会を訪問。小林一征教育長に現物が手渡されました。小林教育長は「AEDは高価な物で本当にありがたい。講習などを通じ、万が一の時に活用していきたい」とお礼を述べ、石田会長は「社会貢献事業の一環として、市民の役に立てば協会としてもうれしい」と話していました。



AEDを寄贈する石田会長（右）



地震体験車に乗り大型地震を体感する参加者

大型地震を体感

横山製網が地震体験車を使って防災訓練

邑久町福元・虫明地内で6月18・20日の両日、地震から身を守るために防災意識を高めようと、地震体験車を使った防災啓発活動が行われました。

横山製網株式会社（横山信昭社長）が、防災訓練の一環として行ったもので、地域の皆さんも参加してマ

グニチュード6〜7程度の大型地震の揺れを体感しました。

地震体験車で、阪神大震災などで実際に起きた地震の規模を再現。揺れの大きさに驚いている参加者の皆さんは、あらためて地震に対する備えの必要性を感じていました。

吹奏楽の発展に貢献

清水徹さんが全日本吹奏楽連盟から表彰状を授与

5月30日、清水徹さん（58歳・邑久町福元）が、日本吹奏楽発展の貢献を認められ、全日本吹奏楽連盟から表彰を受けました。

清水さんは、岡山県一般吹奏楽連盟に30年所属。初代・3代の理事長も務めました。地元では酔聖会ウインドプラスの総監

督として、指揮・指導を行っています。

「吹奏楽は、みんなで力を合わせることに素晴らしさを教えてくれた。多くの人とかかわれたことが、自分の財産」と話す清水さん。「これからは、市民音楽祭の実現やジュニアプラスの育成に力を注ぎたい」と、抱負を語っていました。



酔聖会ウインドプラスの指導を行う清水さん

ヨットの楽しさを味わって

プールでPOPヨット体験会

ヨットの楽しさを体験しようとして、長船B&G海洋センターで6月22日、「プールでPOPヨット体験会」が開催されました。

小学3〜6年生14人が参加。子どもたちは、最初にヨットのかじの取り方や、転覆した時の対処の仕方などを教わりました。その後、扇風機で風を起こしながら、

ヨットでセーリング体験。参加した杉岡雅さん（10歳・長船町服部）は、「ヨットの舵を取るのも慣れたら面白い」と楽しそうに話していました。

セーリングに慣れた子どもたちは、最後にみんなでレースリレーをして楽しんでいました。

お魚さん大きくなつて

邑久町虫明長島で豊魚祭

邑久町虫明の長島で7月5日、豊魚祭（岡山県主催）が開催され、漁業関係者など約150人が参加しました。

水産資源の回復を願って稚魚の放流を行うこの行事は、漁業関係者と県民が協働し、毎年県内の

瀬戸内沿岸各地で開催されているもので、今年は、サワラやヒラメなどの稚魚1,500匹を放流。

当日は、裳掛児童館の園児などが招かれ、波打ち際から体長12センチほどのサワラの稚魚を、楽しそうに放流しました。



長島船越の海岸でサワラの稚魚を放流する裳掛児童館の園児たち